

# オープンキャンパス2011 実施報告

安武 芳紘  
Yoshihiro YASUTAKE

九州産業大学 情報科学部 情報科学科  
Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University  
yasutake@is.kyusan-u.ac.jp, http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~yasutake/

## 1. はじめに

第1回オープンキャンパス2011における情報科学部のとりくみを紹介する。今回は学生を中心とした活動の流れが分かるように時系列で説明をする。そして最後に来場者の集計を報告する。

## 2. 代表者打合せ

オープンキャンパスの実施にあたり、9つの研究室と情報システム研究会、2年生有志グループが参加した。実施に関わった学生の人数は約90名であった。準備期間には、これらの研究室やグループからの代表と入試課が募集した学部代表2名の学生、そして入試広報委員と助手が集まり2回の打合せを行った。「高校生には夢と希望を」「父兄には安心を」の2つをモットーに、来て楽しめ、かつ情報科学部への入学に期待と希望を持って帰宅させることが目標であると確認した。また、イベント内容とその場所、前日準備と当日のスケジュールなどの確認をした。

## 3. 今回の工夫

学部設立当時から情報科学部は12号館1階ロビーの1箇所ですべてのイベントを集め展示している。来場者は長い距離を移動することなくさまざまなイベントに参加できることや、学生が集まっていることにより学部の雰囲気を感じることができることなど、さまざまな利点がある。

代表者打合せで検討事項として挙げたのは、1階ロビーにおける来場者の流れである。図1のようにエレベータを中心に円状にイベントが配置されるため、時計回りと反時計回りの両方の流れが可能である。そこで、以下のような要件を踏まえて議論が行われた。

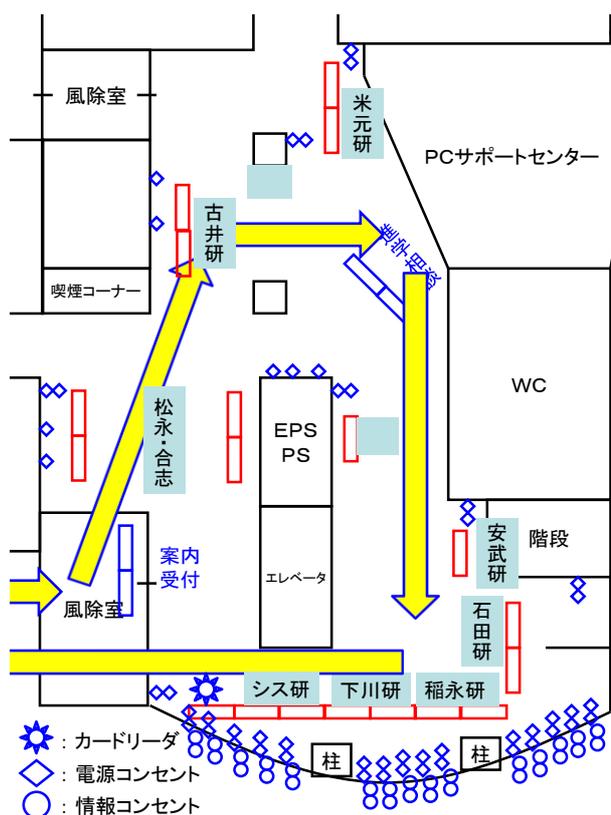


図1 情報科学部12号館1階ロビー

- 流れは1つとし、入口に受付を置き、出口にはスタンプラリーのためのカードリーダーを置く。
- 模擬講義開始前は入口から教室までの距離が近い流れにする。
- 入口付近のイベントに来場者が集中する傾向がしばしばあるため、できれば途中から流れを変えたい。

議論の結果、模擬講義開始までは時計回り、終了後は反時計回りとなるように受付が制御することになった。

当日は受付の手際が良かったことやスタンプラリーのカードリーダーが無線を利用した小型端末であ

ったため、円滑に来場者の流れを変えることができた。そして、今後の聞き取りも必要であるが、一日を通して来場者が一箇所に偏ることが無かったように思われる。

#### 4. 模擬講義

松永勝也教授による模擬講義「バーチャルリアリティ技術について」が行われた。約 50 名もの来場者があり、出席カードには「バーチャルリアリティ技術を遠隔操作に使用されているとは知らなかったの、とても関心がもてました。」や「話をするだけではなくて、私たちにも簡単に伝わるように体験をしたのでとても良かったです。」という感想があった。

#### 5. 情報科学部体験イベント・研究室紹介

今回のオープンキャンパスに出展したイベントのテーマを紹介する。

表 1 イベントテーマ名

研究室	イベント
松永・合志 研究室	安全運転教育用シミュレータ
	実時間・事後安全運転支援システム
	ASSIST
	足型測定器
	手動車いす移動者支援経路誘導システム用データ収集システム
下川 研究室	柿右衛門様式窯 窯出しインターネット中継
	インターネットの入り口を作ろう!
成研究室	Web 上で楽しい授業体験をしましょう!
石田研究室	バーチャル電波伝搬
稲永研究室	企業と“コラボ”ってる授業ってどんな感じ?
米元研究室	AR アプリを作ってみよう
古井研究室	QR コードで広がる、つながる、みんなの輪
安武研究室	2 輪倒立振り子ロボット
情報システム 研究会	Web ページで自己紹介しよう!
	Android を触ってみよう
	プログラミングを体験しよう

この他にも 2 年生有志グループが受付を中心に担当し、学部代表学生が学部教員とともに進学相談を担当した。また他にも経営学部と情報科学部田中研究室が連携している IC カードプロジェクトにより、2 号館の展示と学内各所のスタンプラリーによる実演があった。

#### 6. 懇親会

オープンキャンパス終了後に懇親会を学部学生と教職員が集まり立食形式の懇親会を 8 号館クラブハウスで開催した。学部互助会の支援により行うことができたことをこの場を借りてお礼申し上げる。

#### 7. 来場者数の集計

集計結果を図 2 に示す。2010 年第 2 回は例年と同様の結果であった。2011 年第 1 回は来場者が 356 名となり大幅に増えた。その原因の 1 つはスタンプラリーを目的とした来場者が多かったのではないかと考えている。しかし、イベントに参加した来場者数も伸びていることから、学部の取り組みに興味を少なからず持つことになった来場者がほとんどではないかと推測する。

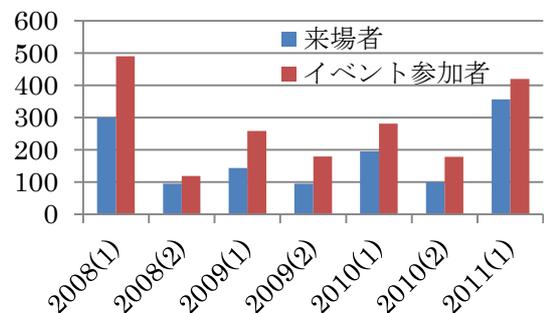


図 2 来場者数と参加者数、(1)第 1 回、(2)第 2 回

#### 8. まとめ

研究室に所属する学生や有志の学生を始め、先生方や学部事務室の方々のご協力により学部が一体となったオープンキャンパスができたのではないかと思います。オープンキャンパスは学外の方々とのコミュニケーションの機会であるだけでなく、学生同士や教職員との繋がりを深める機会にもなっている。今後たくさんの学生が参加してくれることを期待したい。